

5 令和3年度 東京都立千早高等学校 学校経営計画

令和3年4月1日

校長 小塩 明伸

1 目指す学校

(1) 教育目標

グローバルに激変する社会環境の中で自立し活躍することのできる人材を育成する。

(2) 目指す学校像

あらゆる教育活動において、教職員全体が教育目標の達成と生徒一人一人への指導育成に向けて、それぞれの力量を最大限に発揮した教育を実践する。また、教職員は全体の奉仕者及び教育のプロとしての自覚と使命感、責任感をもって職務を遂行するとともに、「RESPECT」の精神を踏まえて常に新しい時代における本校の在り方を追求し、生徒や保護者、都民からより一層信頼される魅力ある学校づくりを目指す。

(3) 学校組織

「持続可能な教育現場の創出」＝「ちはやイズム」

- ①「管理職→主幹教諭（主幹養護教諭）→主任教諭（主任養護教諭）→教諭（養護教諭）」の「タテ」組織と、校務分掌間、学年と校務分掌間、学年間などの「ヨコ」組織との有機的な連携を図る。
- ②学校に存在する分掌、学年、委員会、教科会、研究協議会などの様々な組織（「場」）における教職員間の協議等を通じて、新しい「気付き」に繋げ、「暗黙知」から「形式知」へ、更に「形式知」から「新しい暗黙知」へというスパイラルアップを図る。
- ③あらゆる教育活動の成果検証、目標や情報の共有化、決定プロセスの見える化などを図るとともに強固な協働体制を構築し、教職員のモチベーション及びモラルの高い学校運営組織を実現する。

2 中期的目標と方策

本校は進学型専門高校として18年目を迎え、新しいタイプの学校として一定の評価を得てきた。これまでも実践してきた英語とビジネスを柱とした本校独自の教育内容や指導方法を更にブラッシュアップを図るとともに、その取組を教育課程に落とし込み、教育活動の質を高める。更に、進学型専門高校のフロントランナーとして大学進学実績向上を図り、都立高校の中で明確な役割と立ち位置を確立する。

「学校の教育活動全体を通して教科横断的に育成すべき資質・能力」

◎学問基礎の習得を図り、生涯にわたって主体的に学び続けるための基礎力を培う。

◎異文化への理解を育み、国際社会の一員として社会に貢献する精神を養う。

◎個性と創造力豊かな人間性を育むとともに、異なる考え方を認め、他を尊敬する心を養う。

「学校の教育活動全体を通して教科横断的に育成すべき資質・能力」に基づくルーブリック

◎「基礎学力」「情報活用」「他者の尊敬」「コミュニケーション力」「異文化理解」「社会貢献」の全ての項目について、「レベル4」にまで引き上げる。

- (1) 新学習指導要領や東京都教育施策大綱などを踏まえ、経営会議やオペレーティングコミッティ（企画調整会議）などを通して、今後の本校の在り方を検討するとともに、分掌や所掌事務の見直しや教育課程の再編成など、学校全体の再構成を図る。
- (2) 校内外を問わず、あらゆる教育活動においてSDGsの視点を踏まえた活動の推進を図る。
- (3) 45分授業及び観点別評価の確実な定着、「主体的・対話的で深い学び」や教科横断的授業、更に、「『学校×ICT（オンライン学習も含む）×自宅学習』のベストミックス」の取組などにより、基礎学力の定着向上及び、学びに向かう力や自己肯定感の醸成を図る。
- (4) 教育活動を強固の推進していく上での安定的な入選倍率確保に向けて、訴求力のある募集広報活動の在り方を検討する。
- (5) 生徒の高い規範意識醸成のために、本校の生活指導の在り方を検討する。

- (6) 入学時から7年間を見据えたキャリア教育を着実に実施するために、指針となる「千早13ステップ」を策定し、専門学校への進学率を10%以下にする。
- (7) 入学生の入学意識調査や卒業生の追跡調査を行い、生徒にとって有効な教育活動の在り方を検討する。
- (8) 生徒一人一人の個別最適化の推進やメンタル面でのケアのため、特別支援教育の充実を図る。
- (9) 東京都教育委員会指定の事業や本校独自の海外連携事業及び海外修学旅行など、海外と関わる連携事業全般に渡り総合的な見直しを図る。
- (10) 学校設定科目「ERP (Extensive Reading and Presentation : 多読と発表)」を検証し、これからの英語教育を強ちに牽引する内容まで高めていく。
- (11) これまで培ってきたビジネスの「不易と流行」を外部との連携を含め、実学的要素をこれまで以上に積極的に取り込み、指導内容や指導方法をブラッシュアップするとともに、学びの体系化を図り、魅力あるビジネス教育の推進を図る。

3 今年度の取り組み目標と方策

(1) 教育活動の目標と方策

①学校経営

- ・新学習指導要領の実施を踏まえ、組織編制、所掌事務等、学校の体制を再編成する。
- ・学校経営が円滑に進むよう、学年内、学年間、学年分掌間などの連絡調整を確実に図り、効果的効率的な会議運営や進行管理になるようにする。
- ・「OJT診断基準」や「執務ガイドライン」、「経営参画ガイドライン」に基づき、会議・委員会等を効果的に活用して校内OJT体制を推進するとともに、拡大分掌会の充実を図る。
- ・新学習指導要領に基づくグランドデザインから、カリキュラム編成及び観点別評価の策定を行う。
- ・教員の授業力向上を図るため、教科主任を中心とした各教科における人材育成、授業公開や若手教員研修を活用した教員相互による授業参観を実施する。
- ・「文化・スポーツ等特別推薦」での入学生の生活状況及び卒業後の進路状況を把握し、今後の在り方を検討する。
- ・本校の特色を理解した意欲ある生徒を安定的に確保するため、募集広報活動を意図的計画的に進める。
- ・日常的なクリーンデスクを励行し、東京都の個人情報取扱基準を含む「千早ハンドブック（校内諸規定集）」を活用・遵守して学校の保有する生徒の個人情報を適切に管理する。また、帳票類を適切に作成し管理する。

②学習指導

- ・コロナ禍における学びの継続及び学びの保障の観点から、「学校×ICT（オンライン学習も含む）×自宅学習」のベストミックスの取組を進める。
- ・各教科でグループワークやプレゼンテーション等を取り入れることにより、思考力や判断力、表現力を高めるとともに、生徒の主体的対話的で深い学びを引き出していく。
- ・全ての教科で教科横断的な取組を進める。特に、英語とビジネスはその中心的な役割を担うようにする。
- ・国語と英語の必修科目では、3年間を通して習熟度別の少人数授業を展開することにより、各教科の基礎力の定着や読解力の育成を図り、生徒の学力向上につなげていく。
- ・第1・2学年生徒が学習する必修科目について、グランドデザインを踏まえ、明確な学習目標に基づいた指導と評価を組織的・効果的に行う。
- ・「使える英語」を楽しく学習させるため、学校設定科目「ERP（多読と発表）」の組織的な指導体制の充実を図るとともに、生徒の変容や学習の成果を検証して発展的な学習につなげる。
- ・実社会との関わりを通じてビジネスの学習を深化させるため、企業やNPO、地域人材・資源との連携を図りながら、幅広いソーシャルビジネス等を取り入れた「千早ビジネス教育」を展開する。また、SDGsの取組を進める。

③生活指導

- ・グローバル人材としての基礎となるタイムマネジメントやルール・マナーを身に付けさせるため、正門指導、朝礼、集会、学校行事、課外授業等を通して、基本的な生活習慣を確立させるとともに、規律ある学校文化の定着

を図る。

- ・「生活指導統一基準」に基づき、千早生として身に付けるべき規律・規範等を明示し生活指導の充実を図る。
- ・スクールカウンセラーによる第1学年生徒の全員面接や保護者・関係諸機関との連携等を図り、生徒の生命尊重を含め、心身共に健やかな成長を促進する。

④進路指導

- ・将来の進路選択及び進路実現に向けて学ぶ目的を段階的に育成するため、「千早進路ロードマップ」に基づき、学年別進路セミナーや進路模擬試験、卒業生講話等を系統的・計画的に実施する。
- ・生徒の多様な受験を支援し、進路決定を実現するため、小論文チームの充実を図り、全教員が横断的に小論文・面接等の進路指導に関わり、分野別や学部別等の個別指導を組織的に行う。
- ・進路意識を高めさせるよう、期末考査後の教育活動における「読書」の時間の効果的活用を検討する。

⑤特別活動・その他

- ・ビジネスコミュニケーション科としての個性化・特色化をより一層図るため、「英語」と「ビジネス」を中核として各教科等が様々な形で融合した教育活動を組織的に展開する。
- ・世界規模の視野で物事を考え、地域の視点で行動する能力を育成するため、地域や関係諸機関、SPA保護者の会、人材バンク等と連携し、「グローバル」な視点での教育活動を継続する。
- ・「知」「徳」「体」のバランスが取れ、異文化理解や日本の伝統文化への理解を図り、「おもてなし教育」を推進し、「アクティブプラン to 2020—総合的な子供の基礎体力向上方策（第3次推進計画）—」に基づき、「栄養・運動・休養（健康三原則）」を旨とし、朝食摂取率の改善・向上を図り、体力合計点を都平均値まで近づける。

(2) 重点目標と方策

①学校経営

- ・経営会議やOP等で新しい組織編制や所掌事務等を検討する。
- ・会議の進行管理を徹底し、60分以内に終了するようにする。
- ・教務部、生活指導部、進路指導部の拡大分掌会を、毎週実施する。
- ・本校の特色ある教育活動を広く都民に発信するため、学校ホームページにあらゆる教育活動をアップし本校の魅力を発信するとともに、オンライン見学会説明会の実施を検討する。
- ・教員一人一人の授業力向上を図るために、ICTリーダーを中心に、各教科でICT機器の実践的な活用に取り組むとともに、オンライン授業を確実に実施できるように環境整備や研修、授業観察等を行う。
- ・「文化・スポーツ等特別推薦」での入学生の生活状況を把握し、次年度以降に活かす。
- ・教科代表者会議や東京グローバル10プロジェクトを中心に、英語科及びビジネス科として特色ある教育活動を推進する。
- ・経営企画室と職員室の密な連携の下で、適切な予算編成・管理・執行を行い、教育資源の充実を図る。生徒・保護者・都民への合理的配慮への対応を進める。
- ・「学校における働き方改革推進プラン」により、教員の在校時間の適切な把握と意識改革を進める。

②学習指導

- ・新学習指導要領を踏まえ、新たな教育課程を編成するとともに、観点別評価の実施に向けて検討する。
- ・「学校×ICT（オンライン学習も含む）×自宅学習」のベストミックスの取組を教務部や総務情報部を中心に進める。
- ・全ての教科で教科横断的な取組及びSDGsを踏まえた授業を進めるとともに、他教科の授業参観や連携授業の実施などを通して、学際的な授業力向上を進める。
- ・「東京グローバル10」指定校として、生徒の英語力の向上を図るため、特色ある英語教育や国際理解教育を推進するとともに、JETプログラムの効果的な活用に取り組んでいく。特に、検定については、生徒への意識付けから合格までの指導支援のプロセスを検証する。
- ・生徒の英語の定期的な効果測定に基づく学習指導の改善・充実に取り組み、「使える英語」の定着を図る。特に、学校設定科目「ERP（Extensive Reading and Presentation：多読と発表）」は、抜本的に改善していくために、指

導内容や指導方法などを検証する。

- ・ビジネスの科目において、実学的要素をより一層取り入れた授業を進める。
- ・各種検定受験への意識を高めるとともに、合格までの補講体制を構築する。
- ・課題の提示を工夫・改善するとともに、学校図書館の効果的な活用に取り組み、自学自習時間の増加を図る。

③生活指導・進路指導

- ・関係諸機関と連携した実践的・体験的な教育を推進し、自らを守る能力や他者を尊重する心を育む。
- ・本校の生活指導の在り方を検討する。
- ・遅刻する生徒を、減少させる。
- ・CSL委員会を中心に、教科「人間と社会」を推進し、道德教育及びキャリア教育の充実を図る。
- ・「千早進路ロードマップ」に基づき補習・補講の体系化を推進し、組織的・体系的な指導を行い、大学への進学を念頭に、生徒一人一人の進路実現を図る。
- ・小論文チームの全体的な底上げが図れるよう、校内研修の開催や、研修受講の啓発等を積極的に行う。
- ・進路意識を高めさせるよう、期末考査後の教育活動における「読書」の時間の効果的活用を検討する。

④特別活動・その他

- ・コロナ禍での学校行事について検討を進める。
- ・校内研修や職員連絡会などを活用して、スクールカウンセラーから教員のカウンセリングマインドの醸成や生徒へのメンタルケア対応の充実を図る。
- ・各部活動において、自主的・自立的な活動の更なる推進を目指し、年間目標や指導方針を定め、体罰等の無い適切な指導による部活動指導を展開する。
- ・文化・スポーツ特別推薦の活用により、部活動の充実と学校の活性化を図る。

4. 数値目標 * () 内は昨年度実績

入学時	在校時	卒業時
・推薦 3.00 倍以上 (3.35 倍) ・一般 1.50 倍以上 (1.45 倍)	・生徒による授業満足度 90%以上 (86.3%) ・1 日当たりの自学自習時間 50 分以上 (39 分) ・学校評価における教育相談の肯定的評価 70%以上 (59%) ・部活動加入率 80%以上 (67%) ・実用英語検定準 2 級以上受検者 300 名以上 (292 名) ・クラス 1 日当たりの遅刻者数 1 人以下 (1.4 人) ・全商簿記検定 1 級以上合格者 15 名以上 (17 名)	・進路決定率 100% (95.0%)